

農作業特報

黒部市
黒部市農業技術会議

今年のコシヒカリ（5月13日田植）の生育は、6月下旬からの高温の影響で平年より4日程度早めに進んでいます。今後は生育状況や気象等に留意して、穂肥施用や病害虫防除を的確に行いましょう。

1 コシヒカリの穂肥 ～生育状況を見て慎重に施用～

【基肥一発体系の場合（平地、5月中旬植え）】

(1) 今年7～8月の気温が高めとなる予報が出ていることから、葉色が薄い場合は、追加穂肥を施用しましょう。また、追加穂肥に備えて肥料を準備しておきましょう。

【追加穂肥の目安】
出穂期の7～10日前（穂ばらみ期）の葉色が4.2未満（壤土は、4.0未満）の場合

直ちに施用!!

追肥3号で 5～7 kg/10a

※遅くとも出穂期の3日前（走り穂）までに施用する

【分施体系の場合（平地、5月中旬植え）】

時期	幼穂長	草丈	葉色	肥料名および施用量
出穂期の15日前 (7月15日頃)	1.5cm	82cm以下	3.8	LP追肥38号 15kg/10a

※中山間地域や5月中旬以外の田植えの場合は、施用時期が異なります。

(1) ほ場によって生育の進み方が違いますので、**幼穂長(1.5cm)**を必ず確認して、施用しましょう。

幼穂長1.5cmを確認する



(2) 穂肥施用時に草丈が長い(82cm以上)場合や、葉色が濃い(3.8以上)場合は、施用を**3日程度遅らせ**ましょう。

株の中で一番長い草丈の茎を根元から抜き取る。ほ場毎に5株程度で幼穂の長さを確認する。

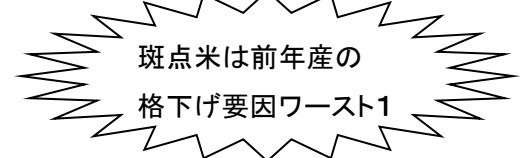
2 出穂期までの水管理 ～適正な葉色へ誘導する～

幼穂形成期以降は、**飽水管理**（足跡に水が残る程度）を行い、水田が乾き過ぎにならないように注意しましょう。一方で、水を溜めっぱなしにするのも厳禁です。

熱中症予防のため、こまめな水分補給を行い、体調管理に注意しましょう。

3 病害虫防除

カメムシ類による斑点米の発生を防ぐため、品種や生育に応じて**適期防除**を徹底しましょう。出穂の早い早生品種やカメムシ類の多発時は、被害を受けやすいので、**必ず3回防除**を行って下さい。また畦畔雑草にもカメムシが生息しているので、畦畔にも薬剤がかかるように散布しましょう。散布間隔は7日間を目安とします。（10日以上あけない）



【基本防除の目安】

○ 粉剤または液剤の場合

剤型	時期	使用農薬	散布量/10a (希釈水量/10a)	使用基準 (収穫前日数)
粉剤	穂揃期	ビームモンカットスタークルF粉剤5DL	4kg	14日前まで
	傾穂期	キラップ粉剤DL	4kg	14日前まで
	多発時	トレボン粉剤DL	4kg	7日前まで
液剤	穂揃期	ビームエイトスタークルゾル	薬量 150 ml (希釈水量 150 l)	14日前まで
		モンカットフロアブル		14日前まで
	傾穂期	キラップフロアブル	薬量 150 ml (希釈水量 150 l)	14日前まで
	多発時	エクシードフロアブル	薬量 75 ml (希釈水量 150 l)	7日前まで

- ・風向きと風力、散布量等に注意し周辺の作物や住宅地等への飛散防止に努めましょう。
- ・農薬は基準量を守って使用し、栽培履歴をしっかりと記録しましょう。

○ 粒剤の場合

防除時期	品種	使用農薬	散布量/10a	使用基準 (収穫前日数)
穂ばらみ期	中生	イモチエースキラップ粒剤	3kg	35日前まで

・出穂10日前までに散布する。散布に当たっては、水深3～5cm程度の湛水状態で均一に散布し、散布後少なくとも4～5日間は湛水状態を保ち、7日間は落水しない。

※カメムシ類の多発条件や水持ちの悪いほ場は、効果不足が懸念されるため使用を控えるか、粉剤または液剤を使用し、追加防除を行って下さい。

※粒剤は残効性が長いので、残留農薬防止のため収穫前日数を厳守して散布して下さい。

【随時防除】

紋枯病の発生がみられる場合、穂ばらみ期（出穂10日前頃）に防除しましょう。

剤型	使用農薬	散布量/10a (希釈水量/10a)	使用基準 (収穫前日数)
粉剤	モンセレン粉剤DL	4kg	21日前まで
液剤	バリダシン液剤	薬量 150 ml (希釈水量 150 l)	14日前まで